別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和2年度報告）

静岡県

1　被害防止計画の作成数、特徴等

本県では、34市町で被害防止計画が策定されている。各市町は、被害の軽減目標を達成するため、侵入防止柵の整備、被害防止目的の捕獲、緩衝地帯の整備、被害防止研修会等を実施している。

2　事業効果の発現状況

市町による地域住民を主体とした被害防止対策の取組と、それを県が支援したことにより、農作物被害額はピークであった平成21年度から減少傾向にある。

3　被害防止計画の目標達成状況

令和元年度を被害防止計画の目標年度として事業評価を行った13事業実施主体のうち、被害金額又は被害面積で目標を達成したのは11事業実施主体であった。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 目標値	被害金額（千円） 実績値	被害金額（千円） 達成率	被害面積（a） 目標値	被害面積（a） 実績値	被害面積（a） 達成率	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
下田市有害鳥獣対策協議会	下田市	平成29年度～平成31年度	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシン タイワンリス	緊急捕獲活動支援事業	【H29】参考 イノシシ：348頭 ニホンジカ：284頭 サル：6頭 【H30】参考 イノシシ：337頭 ニホンジカ：216頭 サル：10頭 【H31】 イノシシ：335頭 ニホンジカ：208頭 サル：2頭	下田市有害鳥獣対策協議会	—	—	【H29】 年間を通じて、市内で有害捕獲を実施した者に対して活動経費を緊急捕獲活動支援事業の交付金をかつ。主に、ニホンジカ、イノシシ、サルの捕獲を実施している。収益の高い作物が被害にあっており、前年比で被害面積は34%減少している。ニホンジカによる被害が42%と大きく減少している。 【H30】 昨年度と同様に市内において有害捕獲を実施した。平成30年度においては、広範囲でイノシシやニホンジカの目撃情報、被害相談が寄せられ、農地だけではなく、生活環境への被害相談も多く寄せられるようになった。防護柵の普及も進み、農地については一定の防除ができているが、不完全に設置をされたところから有害鳥獣に進入されるなど、広範囲の農地で被害が確認され、被害面積は前年比で25%ほど増加してしまったが、防護柵の効果や市民の追い払い活動などもあり、被害金額などは前年度よりも10%の減少となった。 【H31】 緊急捕獲活動支援事業における捕獲頭数は減少をしているが、防護柵等の防除の普及により、農作物への鳥獣被害は、被害面積が16%、被害金額が15%の減少となっている。	683	422	38.3%	995	610	36.0%	【H29】 捕獲頭数は年々減少傾向にあり、農作物の被害も減少している。捕獲圧が高まり、人里まで下りてきて農地を荒らす個体が減少したと思われる。しかし、生息数の増加を防ぐために一定頭数を捕獲する必要があると考えている。積極的な捕獲活動を実施するとともに、捕獲の担い手確保など、継続的に捕獲活動が実施できるように交付金などを活用した事業の実施をするようにしていく。 【H30】 緊急捕獲活動支援事業のみ実施をした。捕獲頭数は前年度よりも減少してしまったが、被害は減少傾向にある。防護柵等の普及に伴うものと思われるため、捕獲と防除を同時並行に実施をしていく必要がある。 【H31】 捕獲頭数は前年度よりも減少をしているが、被害については抑えられている。別事業ではあるがICT機器を導入したことにより見回りの効率化が図られるため、今後の捕獲頭数の増加に期待したい。また、担い手不足の傾向があるため、新規狩猟免許取得者の増加に向けた対応を検討していきたい。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。事業実施主体の評価にもあるように、捕獲だけでなく集落ぐるみの防除が進むような体制づくりを進めることを期待する。また、サルの捕獲を行うことで、群れが分裂し被害が拡大することがあるため、群れの生態を考慮しつつ、捕獲に取り組むよう注意して欲しい。	目標達成はされているが、イノシシの被害は金額、面積ともに増加しているため、被害の大きな地域を中心に地域ぐるみの対策を講じてほしい。。
下田市有害鳥獣対策協議会	下田市	平成29年度 平成31年度	イノシシ ニホンジカ サル ハクビシン タイワンリス	推進事業	【H29】 捕獲用箱罠：5基 【H31】 下田市鳥獣被害対策実施隊活動経費 くくりわな7 基67,760円（8,800円／基（税抜き）） ダニ対策衛生用品、捕獲時の安全確保に使用する機材、止刺し用資材（皮手袋、ﾜｲﾔｰなど）：125,179円 捕獲活動等に使用する車両の借料：246,000円 捕獲活動等に使用する車両の燃料費：173,964円 効率的な捕獲を行うためのICT機器の導入に伴う資材費：991,312円	下田市有害鳥獣対策協議会	—	—	【H29】 箱罠を5基購入し、市内の農地の鳥獣被害対策として設置をした。箱罠を導入したことにより前年比54%捕獲数が増加した。 【H31】 令和元年度より下田市鳥獣被害対策実施隊を設立し、市内の鳥獣被害の対応を実施した。市職員（市が雇用している会計年度任用職員を含む）で構成されており、市が設置をしている罠の見回りや、被害相談のある現地の確認、罠の設置、市内出没鳥獣の追い払いなどを実施している。また、被害相談をしてきた方々に対して防除の指導、助言を実施をし、鳥獣被害の減少に努めている。市内に設置をしている罠の見回りの効率化を図るため、ICT機器（捕獲通知システム）を導入した。 令和元年度中にイノシシ89頭、ニホンジカ85頭、サル1頭を捕獲した。							【H29】 箱罠の個数を増やすことにより捕獲個体数も増加した。地域住民からの相談への対応も柔軟にできるようになったが、設置箇所が増えるため見回り等の労力も増加してしまう。 【H31】 市の設置している罠の見回りや捕獲個体の処分など毎日活動をしている。住民からの被害相談や目撃通報にも対応をしており、一定数の捕獲を実施している。また、ICT機器（捕獲通知システム）を10基導入し、市内の遠方にあり、見回りに時間のかかる罠に設置、見回りの効率化に貢献している。現在、農作物被害の相談も多いが、生活環境への被害の相談も多く寄せられている。今後も地域住民からの相談対応を含め、市内の鳥獣被害対策の軽減に尽力したい。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。事業実施主体の評価にもあるように、捕獲だけでなく集落ぐるみの防除が進むような体制づくりを進めることを期待する。また、サルの捕獲を行うことで、群れが分裂し被害が拡大することがあるため、群れの生態を考慮しつつ、捕獲に取り組むよう注意して欲しい。	
東伊豆町有害鳥獣対策協議会	東伊豆町	平成29年度	ﾆﾎﾝｼﾞｶ サル イノシシ ﾀｲﾜﾝﾘｽ	推進事業	サル用箱わな2基	東伊豆町	平成29年4月	—	農作物等の被害軽減のため、サル用箱わな2基を導入して有害鳥獣の駆除を図った結果、平成29年度サル駆除数12頭、平成30年度サル駆除数11頭であった。令和元年度は0頭であった（原因不明）。	1,867	1,715	173%	6,886	2,250	705%	・箱わなを購入したが、被害面積および被害金額が増加してしまったため、新たな対策が必要である。 ・担い手育成に努めたい。孤友会の高齢化が進み、町民からの苦情などに早急に対処が思うように出来なくなってきている。	イノシシ、ニホンジカの被害が減少したため、被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であるが、サルの被害が拡大している。サルの被害対策として、捕獲以外にも防護柵の設置や集落内の放任果樹等のエサとなる資源の管理、追い払い等も合わせて実施する必要がある。上記を実施するためにも町民に対して鳥獣被害対策の意識啓発に取り組むことを期待する。	目標達成はされているが、サルの被害については金額が増加しているため、被害の大きな地域を中心に地域ぐるみの対策を講じてほしい。

河津町有害鳥獣対策協議会	河津町	平成29年度～令和元年度	イノシシ ﾆﾎﾝｼﾞｶ サル ｸﾘﾊﾗﾘｽ	緊急捕獲活動支援事業	【H29】 イノシシ成獣230頭 イノシシ幼獣27頭 ﾆﾎﾝｼﾞｶ成獣636頭 ﾆﾎﾝｼﾞｶ幼獣3頭 サル成獣18頭 サル幼獣3頭 【H30】 イノシシ成獣254頭 イノシシ幼獣29頭 ﾆﾎﾝｼﾞｶ成獣480頭 ﾆﾎﾝｼﾞｶ幼獣5頭 サル成獣18頭 サル幼獣2頭 【R1】 イノシシ成獣243頭 イノシシ幼獣25頭 ﾆﾎﾝｼﾞｶ成獣460頭 ﾆﾎﾝｼﾞｶ幼獣2頭 サル成獣19頭	－	－	－	平成29年度捕獲数はイノシシ257頭、ﾆﾎﾝｼﾞｶ639頭、サル21頭である。実施年度の被害実績はイノシシ215a、1,610千円、ﾆﾎﾝｼﾞｶ384a、3,470千円、サル418a、4,180千円である。 目標値に比べ、被害金額は減少している。 平成30年度捕獲数はイノシシ283頭、ﾆﾎﾝｼﾞｶ485頭、サル20頭である。実施年度の被害実績はイノシシ164a、2,380千円、ﾆﾎﾝｼﾞｶ178a、824千円、サル75a、220千円である。 目標値に比べ、被害金額は減少している。 令和元年度捕獲数はイノシシ268頭、ﾆﾎﾝｼﾞｶ462頭、サル19頭である。実施年度の被害実績はイノシシ193a、1,343千円、ﾆﾎﾝｼﾞｶ129a、836千円、サル28a、499千円である。 目標値に比べ、被害金額は減少している。	8,397	2,701	710%	921	301	801%	イノシシ、シカ、サルいずれも目標を達成することができている。これらは捕獲活動の成果が見えてきたと推測する今後は、捕獲活動を継続するとともに、河津町鳥獣害対策事業補助金を活用して防護柵整備の推進をする。さらに、防護柵の保守点検を実施し、防護柵の効果を高めるように努めていく予定である。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。被害を軽減するために、防護柵の設置を推進することに加え、町民に対して鳥獣被害対策の意識啓発に取り組むことを期待する。また、サルの捕獲を行うことで、群れが分裂し被害が拡大することがあるため、群れの生態を考慮しつつ、捕獲に取り組むよう注意して欲しい。	目標を達成できているため、今後も対策を継続し、被害の縮小に努めてほしい。
南伊豆町	南伊豆町	平成29年度 平成31年度 （令和元年度）	イノシシ サル ﾆﾎﾝｼﾞｶ ﾊｸﾋﾞｼﾝ	緊急捕獲	【H29】 イノシシ成獣226頭　イノシシ幼獣4頭　ﾆﾎﾝｼﾞｶ126頭 【H31】 イノシシ374頭　ﾆﾎﾝｼﾞｶ126頭	南伊豆町	―	―	（鳥獣被害防止）町内全域において、有害鳥獣による農産物等の被害が多発しているため、国庫補助を交付して捕獲を奨励。	23,170	15,510	400%	49,290	6,370	884%	イノシシの捕獲頭数の実績値について、29年度535頭、30年度753頭、令和元年度705頭である。シカの捕獲頭数の実績値について、29年度223頭、30年度237頭、令和元年度206頭である。 増減の差にばらつきはあるものの、 計画年度当初と比較すると増加傾向である。　高齢化の進展による耕作放棄地の増加等に伴い鳥獣被害エリアは拡大傾向にある。また、イノシシにおいては、日中に町中を歩く様子も多く目撃されている。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であるが、住民からの被害報告や相談が見られることから引き続き被害対策を実施することが必要と思われる。捕獲だけでなく、集落ぐるみの防除が進むような体制づくりを進めることを期待する。	目標を達成できているため、今後も対策を継続し、被害の縮小に努めてほしい。
南伊豆町有害鳥獣等対策協議会	南伊豆町	平成31年度 （令和元年度）	イノシシ サル ﾆﾎﾝｼﾞｶ ﾊｸﾋﾞｼﾝ	推進事業	箱わな21基	南伊豆町	令和元年11月20日	―	（鳥獣被害防止）町内全域において、有害鳥獣による農産物等の被害が多発していたため、箱わなを21基購入した。要望を受けた区に貸し出しを行い、鳥獣被害対策に活用された。							町内各区より箱わな借受希望を受け、購入した箱わな21基を13区に貸し出しを行った。結果として捕獲頭数の増加につながったと考えるが、いまだ鳥獣被害は町内全域に及んでおり、被害報告や相談など後を絶たない。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であるが、住民からの被害報告や相談が見られることから引き続き被害対策を実施することが必要と思われる。捕獲だけでなく、集落ぐるみの防除が進むような体制づくりを進めることを期待する。	
西伊豆町猪等鳥獣	西伊豆町	平成29年度 ～ 令和元年度	ニホンジカ イノシシ ハクビシン	鳥獣被害防止 緊急捕獲活動 支援事業	平成29年度 ニホンジカ（成獣）233頭 ニホンジカ（幼獣）6頭 イノシシ（成獣）61頭 イノシシ（幼獣）8頭 平成30年度 ニホンジカ（成獣）253頭 ニホンジカ（幼獣）0頭 イノシシ（成獣）58頭 イノシシ（幼獣）5頭 令和元年度 ニホンジカ（成獣）125頭 ニホンジカ（幼獣）3頭 イノシシ（成獣）153頭 イノシシ（幼獣）12頭	西伊豆町猪等鳥獣害対策協議会	―	―	・令和元年度より鳥獣被害対策実施隊を設置したことによって被害箇所、鳥獣の進入経路等の情報を収集でき、的確な捕獲活動を実施することが出来るようになった。 ・鳥獣進入防止柵の整備事業 では町の補助金を活用し、農業者が鳥獣害対策として柵等を設置し、被害減少に繋がった。	4,635	3,750	269%	720	564	295%	鳥獣害対策実施隊を設置したことにより、具体的な鳥獣の活動範囲、進入経路等の情報収集をすることができ、的確な捕獲活動ができた。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。被害を軽減するために、防護柵の設置を推進することに加え、町民に対して鳥獣被害対策の意識啓発にも取り組むことを期待する。 （静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	目標を達成できているため、今後も対策を継続し、被害の縮小に努めてほしい。
三島市有害鳥獣被害対策協議会	三島市	平成29年度～令和元年度	イノシシ ニホンジカ ハクビシン カラス ヒヨドリ	推進事業	（H29） イノシシ・シカ用箱わな5基の整備	三島市有害鳥獣被害対策協議会	―	―	推進事業で整備した機器の活用により、イノシシ・ニホンジカの捕獲頭数が増加した。 実施隊員の捕獲活動の効率化を図った。	1,642	1,919	−51%	180.0	209.0	−45%	・猟友会や実施隊、民間会社による被害地周辺においての捕獲活動を強化するとともに、捕獲のための機器の整備を進めた結果、被害金額及び被害面積はいずれも目標達成には至っていないが、捕獲数は増加している。今後も集中捕獲を行い、被害軽減に取り組む。 ・令和元年度に更新した被害防止計画の目標達成に向け、これまでの取組を継続するほか、猟友会の高齢化や減少を踏まえ、狩猟者の増加を図るとともに実施隊による育成を図る。また、例年行っている電気柵の適切な設置・管理方法についての勉強会に加え、集落ぐるみで勉強会を行い、「自らの地域は自らが守る」意識をさらに高め、市民と行政が一体となって鳥獣対策を進めていく。	目標達成は出来なかったものの、地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む姿勢を評価したい。今後、市協議会や鳥獣被害対策実施隊が被害地域の住民に対して意識啓発や自衛力の向上を進めることに加え、被害対策の進んだ地域の情報を他地区へ波及させ、更なる被害軽減に繋げることを期待する。 （静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	イノシシとシカによる被害が目標値を大幅に上回っているため、両獣種による被害の地域的傾向を分析するなどして、実態を踏まえた被害防止対策を構築してほしい。
					（H30） ドッグマーカー狩猟者端末4基、犬用端末6基、ハクビシン用箱わな14基、ニホンジカ・イノシシ用電気止め刺し機1基、檻・罠用発信器28基、受信機7機、電気止め刺し機伸縮式＋固定式槍セット7基の整備	三島市有害鳥獣被害対策協議会	―	―											
					（R1） ニホンジカ・イノシシ用くくりわな60基、トレイルカメラ2台の整備	三島市有害鳥獣被害対策協議会	―	―											
				緊急捕獲活動支援事業	（H29） イノシシ（成獣）96頭・（幼獣）4頭、ニホンジカ54頭、ハクビシン37頭、カラス18羽、ヒヨドリ3羽	―	―	―	目標は達成できていないが、捕獲活動を続けているため、軽微な被害にとどまっている。									
					（H30） イノシシ（成獣）63頭・（幼獣）2頭、ニホンジカ65頭、ハクビシン35頭、カラス19羽、ヒヨドリ1羽	―	―	―										
					（R1） イノシシ（成獣）87頭・（幼獣）2頭、ニホンジカ62頭、ハクビシン20頭、カラス2羽	―	―	―										

御殿場市鳥獣被害防止対策協議会	御殿場市	平成29年度～令和元年度	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	推進事業	（H29） イノシシ用箱わな12基、ハクビシン用箱わな12基、イノシシ・シカ用くくりわな75基の整備	御殿場市鳥獣被害防止対策協議会	－	－	農作物被害の多くは人家に近い農地で発生しているため、銃による捕獲が困難だったが、わなを整備したことで農地周辺での捕獲活動が強化され、直接的に被害防止につながる捕獲活動が実施できるようになった。 また、埋設穴の設置や保定用補助具、電気止刺機等の整備により、捕獲従事者の負担軽減につながった。 あわせて、鳥獣被害対策のための講習会の開催により、鳥獣被害を未然に防ぐための取組みが行われることが期待される。	5,944	4,184	365%	558.0	424.0	312%	推進事業や緊急捕獲支援事業の実施により、被害金額、被害面積ともに目標値を大幅に達成することができた。 特にわなの整備により、直接的に被害防止につながる捕獲活動が行われたこと、また、緊急捕獲活動による捕獲の強化の結果、目標値を達成することができた。 あわせて、御殿場市鳥獣被害対策実施隊の被害防止対策に係る地域住民への指導及び助言等の活動も、目標を達成した要因と考えられる。 今後は、被害を未然に防ぐ防除対策等の講習会を開催し、更なる被害の軽減に努めていく。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。引き続き、捕獲や防護柵の設置と合わせて、被害が発生した地域の住民に対して意識啓発を行うことで、今後も被害の軽減に努めることを期待する。 （静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	鳥獣被害対策実施隊を主体とした捕獲対策や指導啓発が奏功して被害の縮減につながっていると評価できる。R1年度に実施した被害対策講習会を継続して実施し、被害防除対策を市内全域に広めていってほしい。
					（H29） 埋設穴1箇所の設置	同上	－	－									
					（H30） イノシシ用箱わな6基、イノシシ・シカ用くくりわな25基、保定用補助具5基、電気止刺機1基、止刺用ナイフ3基、埋設穴設置用機材の	同上	－	－									
					（R1） デジタル登録局無線機13基の整備	同上	－	－									
					（R1） イノシシ・シカ用くくりわな20基の整備	同上	－	－									
					（R1） 鳥獣被害対策のための講習会開催2回	－	－	－									
				緊急捕獲活動支援事業	（H29） イノシシ83頭 ニホンジカ250頭 ハクビシン11頭	－	－	－	捕獲頭数の増加に寄与した。								
					（H30） イノシシ368頭 ニホンジカ188頭 ハクビシン7頭	－	－	－									
					（R1） イノシシ235頭 ニホンジカ477頭 ハクビシン21頭	－	－	－									
伊豆の国市鳥獣被害防止対策協議会	伊豆の国市	平成29年度～令和元年度	イノシシ ニホンジカ カラス ハクビシン	緊急捕獲活動支援事業	（H29） イノシシ284頭 ニホンジカ138頭 カラス30羽 ハクビシン13頭	－	－	－	捕獲数については、当初の計画数（イノシシ200頭,ニホンジカ120頭）を年度途中で超えることが確実となったため、計画の見直しを行い計画数は、イノシシ280頭,ニホンジカ150頭とした。 イノシシの捕獲数は増加しており、当事業の成果が大きく貢献していると考える。ニホンジカについては、従事者が県の管理捕獲を活用している影響もあり、緊急捕獲活動支援事業としては大きな増加は見られないが、管理捕獲の対象期間外も継続的な捕獲支援が出来るなど効果はあったと考える。 また、ハクビシンとカラスについては、補助額が低いため当事業の利用実績は伸びていないが、推進事業による箱わなの整備やJA独自の支援制度など他の事業を活用して捕獲を推進した。	5,385	5,721	44%	1,596.0	141.0	912%	捕獲従事者の高齢化が進む中、イノシシの捕獲数は増加傾向にあり、各事業で金銭面や省力化を支援した結果と考える。ハクビシンについても以前までは、市民（農業者）から要望に対して所有する箱わなの数が不足しており、全ての要望に応えることが出来なかったが、平成29年度に箱わなを20基整備したことで全ての要望に応えて箱わなの設置が可能となった。 捕獲活動は、鳥獣被害対策事業の実績が捕獲頭数として非常に分かりやすく出るため、市民・被害農家等への説明や数値基準として価値がある。また、加害獣を捕獲出来れば一定期間は被害が減少し、緊急対策としての価値は高いと考えるが、市内のみで捕獲による生息数管理には限界を感じており、市内のみの捕獲で生息数が減少に転じる可能性は低いと考える。今後の課題として市街地や海等で分断された広範囲（例：伊豆地域）での市町境を超えたより一層の捕獲の推進や生息数の管理や高齢化が進む主たる担い手の経験・技術を次の世代に繋げる機会づくりが必要と考える。 捕獲以外の対策として、生息環境管理は個人での対策には不向きであり、地域としての対策が主体となるが地域のまとまりや個々の当事者意識の欠如、リーダーとなる人物の不足及び組織の世代交代、効果を数値化しにくいなど多くの課題を抱えている。防護柵の設置については、農作物に対しては非常に効果があり、設置が進んでいることで被害面積の減少に大きく繋がっていると考える が、周囲への出没数自体はあまり変わらず、人家や通学路等への出没が頻発するなど様々な課題が残されている。今後の対策として、それぞれの課題を解決するためICT・IOTなどの最新技術の活用やより一層の捕獲従事者への省力化支援、市や実施隊内での専門的人材の育成、鳥獣対策のハードルを下げ被害者へ当事者意識を持って参加してもらう工夫など効果的な対策に結び付けたい。	被害金額の達成率44%に対し、被害面積の達成率は912%であることから、被害面積は減ったものの一部の地域に被害が激しく発生していると推察される。被害が発生した地域の住民に対して意識啓発を行うことで被害の軽減に努めるとともに、上記の取り組みを他地域に広げていくことを期待する。 （静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	イノシシによる被害金額については目標を達成できたもののシカとハクビシンについては目標値を大きく上回っている状況にある。 このため、両獣種による被害の地域的傾向を分析し実態に即した被害防止対策に努めてほしい。
					（H30） イノシシ249頭 ニホンジカ98頭 カラス26羽 ハクビシン4頭	－	－	－									
					（R1） イノシシ305頭 ニホンジカ103頭 カラス59羽 ハクビシン12頭	－	－	－									
				推進事業	（H29） イノシシ用箱わな6基、ハクビシン用箱わな20基の整備	伊豆の国市鳥獣被害防止対策協議会	H29.8.28 H29.8.7	－	イノシシ用箱わなは、新たに狩猟免許取得した捕獲従事者等へ貸出し、捕獲実績を上げている。とくに新たに取得した者にとっては、最初の金銭面や取っ掛かりのハードルを下げる効果があったと考える。 ハクビシン用の箱わなは、以前の所有数では市民（農業者）からの要望に対し、全て応えることが出来なかったが、新たに20基整備したことで要望に対しては基本的に全て応えることが出来ている。捕獲が出来なくても設置することで農地に寄り付かなくなったり、市民（農業者）が少しでも携わることで当事者意識を芽生えさせる効果があったと考える。									
					（H30） イノシシ用箱わな3基の整備	同上	H31.3.29	－	イノシシ用箱わなは、新たに狩猟免許取得した捕獲従事者等へ貸出し、捕獲実績を上げている。とくに新たに取得した者にとっては、最初の金銭面や取っ掛かりのハードルを下げる効果があったと考える。								
					（H30） 第5回ジビエサミット（研修会）への参加	伊豆の国市鳥獣被害防止対策実施隊	H31.1.24 ～ H31.1.26	－	実施隊員が最新技術や先進事例を学ぶ機会として研修会へ参加した。実施隊員（市職員）は、農業生産者組合の会議等で鳥獣被害対策の講師を任されれる機会も多く、研修会で学んだ内容を生産者へ伝えられる点や研修会で鳥獣対策の専門家の方々と繋がり講習会の講師として招く際の参考に出来る点等の効果があった。									
					（R1） センサーカメラ5基 電気止め刺し機1式の整備	同上	R1.9.6 R2.3.13	－	センサーカメラを導入したことで加害獣、出没数、出没時間等の様々な情報を得ることができそれぞれに合わせた捕獲や対策が打てるようになった。また、得た資料は、被害者や第三者へ客観的な事実として説明できる等の効果があったと考える。 電気止め刺し機の導入により捕獲後の処理が安全で迅速また、動物に対しても多くの苦痛を与えることなく出来るようになったと考える。									
					（R1） 第6回ジビエサミット（研修会）への参加	同上	R1.11.20 ～ R1.11.22	－	実施隊員が最新技術や先進事例を学ぶ機会として研修会へ参加した。実施隊員（市職員）は、農業生産者組合の会議等で鳥獣被害対策の講師を任されれる機会も多く、研修会で学んだ内容を生産者へ伝えられる点や研修会で鳥獣対策の専門家の方々と繋がり講習会の講師として招く際の参考に出来る点等の効果があった。									
小山町鳥獣被害防止対策協議会	小山町全域	平成29年度～令和元年度	イノシシ ニホンジカ ハクビシン カラス	推進事業	（H29） くくり罠50基、ワイヤースプリング90セット購入	小山町鳥獣被害防止対策協議会	－	－	イノシシ・ニホンジカ・ハクビシンの捕獲に活用	11,159	6,419	482%	418.0	305.0	340%	平成29年度に設置した鳥獣被害対策実施隊によりパトロールや捕獲体制を強化し、また、侵入防止柵設置に係る助成制度を推進した結果、被害金額・被害面積とも目標を達成することができた。 侵入防止柵の設置が進まない地区に有害鳥獣が侵入しているケースがみられるため、引き続き捕獲圧を高めるとともに防護対策を進める必要がある。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。引き続き、捕獲や防護柵の設置と合わせて、被害が発生した地域の住民に対して意識啓発を行うことで、今後も被害の軽減に努めることを期待する。 （静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	鳥獣被害対策実施隊を主体とした取り組みが奏功して被害の縮減につながっていると評価できる。今後は農業者に被害防除の意識を高めるための指導啓発にも力を入れてほしい。
					（H30） 小型箱罠5台購入	同上	－	－									
					（R1） 狩猟犬用GPS発信機（犬用3機、人用1機）購入	同上	－	－									
				緊急捕獲活動支援事業	（H29） イノシシ74頭 ニホンジカ65頭 ハクビシン0頭	－	－	－	近年（特にR1年度のイノシシ）は捕獲頭数も増えている。								
					（H30） イノシシ75頭 ニホンジカ105頭 ハクビシン10頭	－	－	－									
					（R1） イノシシ112頭 ニホンジカ91頭 ハクビシン10頭	－	－	－									

富士市鳥獣被害防止対策協議会	富士市	平成29年度～令和元年度	サル イノシシ ニホンジカ ハクビシン アライグマ カラス ヒヨドリ	捕獲事業	（H29） サル４頭、イノシシ64頭、ニホンジカ260頭、カラス60羽	－	－	－	各年度、捕獲事業に取り組むことにより、野生鳥獣の増加数を抑制し、特に被害面積の抑制につながった。	4,392	6,025	0%	7,920	8,035	86%	講習会による啓発と、機材購入による捕獲活動の強化を実施した。 被害面積に関しては、目標をおおむね達成したが、被害金額に関しては、ハクビシンにおいて被害減の目標を達成したものの、全体的には増加した。 これは、これまでに被害が出ている地域においては電気柵等の対策が施され、鳥獣が市街地へ進出したことにより、イノシシやニホンジカによる豆類や水稲の被害、鳥類による果樹や野菜への被害が増加したためと考えられ、さらなる対策と捕獲頭数の増が必要である。	被害金額は増加しているものの、講習会の開催により啓発活動に取り組み、電気柵の設置等の市民の自発的な被害対策を推進した点については評価したい。被害が拡大しているカラス、ヒヨドリの被害については、銃器による捕獲と合わせて音や視覚などによる追い払いを併用することで効果が高まる。今後も鳥獣被害対策に取り組むとともに、対策の進んだ地域の取組を積極的に情報発信し、対策が広まることを期待する。 （静岡県農林技術研究所　森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	被害金額の増加は見られるものの、啓発活動や被害防止対策等の取組が進められている。被害状況の変化に応じ、効果的な対策が取られるよう、更に推進をお願いしたい。
					（H30） サル５頭、イノシシ72頭、ニホンジカ152頭、ハクビシン2頭、カラス50羽	－	－	－											
					（R1） イノシシ84頭、ニホンジカ133頭、ハクビシン5頭、カラス70羽	－	－	－											
				推進事業	（H29）被害防止講習会の実施（１回）。小型獣用電撃器2台を購入。	富士市鳥獣被害防止対策協議会	－	－	被害防止講習会の開催により、地域住民や、捕獲活動を行う者の知識の向上が図られた。 2年にわたるサル追跡用GPS首輪発信機と調査機材一式の購入により、市内に3群いると思われる群れのうち2群の行動範囲を追跡し、捕獲活動に役立てた。 捕獲用機材の購入とその貸し出しにより、特に銃猟ができない場所における捕獲活動の充実が図られた。									
					（H30）被害防止講習会の実施（１回）。電気柵一式、サル追跡用GPS首輪発信機及び調査機材一式、小型箱わな1基、箱型くくり罠52基（ハクビシン、アライグマ用）を購入。	同上	－	－											
					（R1）被害防止講習会の実施（１回）。サル追跡用GPS首輪発信機、センサーカメラ5台、サル用箱わな3基、カラス捕獲器1台購入。	同上	－	－											
牧之原市鳥獣被害防止対策協議会	牧之原市	平成29年度～令和元年度	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業 推進事業	（H29） イノシシ成獣137頭、 幼獣63頭 （H30） イノシシ成獣215頭、 幼獣49頭 （R1） イノシシ成獣276頭、幼獣49頭 （H29） 捕獲用箱わな6基、 くくりわな20基購入 （H30） 捕獲用箱わな6基購入 （R1） 捕獲用箱わな6基購入	－	－	－	例年、市内北部の地域にイノシシによる農作物の被害、茶園の踏み荒し、幼木の掘り起こし等の被害が多発していたが、近年、被害は南下し、被害が増加・拡大傾向にあったことから、緊急捕獲活動支援事業、推進事業を活用し、捕獲者の捕獲活動の支援、捕獲用箱ワナを購入し猟友会へ貸与した。これらの取組により、年々、捕獲頭数は増加し、捕獲頭数の増加に伴い、被害面積、被害額は減少した。	2,391	976	632	87.3	34	649.5	取組を実施したことにより、イノシシの捕獲頭数は増加し続けており、被害の拡大を抑えることができた。今後も、取組を継続していき、併せて住民に対しての意識啓発も積極的に行い、牧之原市の鳥獣被害が減少するよう努めていく。	現状では被害面積も少なく、林縁の一部の地域で被害が発生している状況と推察される。被害が多発している地域では、捕獲の他、住民に対し意識啓発を行うことで獣が近寄りにくい集落づくりを進めてほしい。	これまでの被害対策の効果が確実に現われている。今後は、鳥獣被害対策実施隊の活動がさらに充実し、集落ぐるみの取り組みにより、被害がさらに減少することを期待する。
御前崎市有害鳥獣被害防止対策協議会	御前崎市	令和元年度	イノシシ(成獣)	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	イノシシ51頭	御前崎市有害鳥獣被害防止対策協議会	－	－	イノシシの出没連絡のある場所に対して猟友会と連携し、防除策の指導及び捕獲活動の実施を行った。	54	420	0	2.3	21	0	近年のイノシシによる農作物被害の増加により、令和元年度より緊急捕獲活動支援事業を実施することとした。 被害額、被害面積ともに目標を達成することができなかった。 要因として、平成30年度では御前崎市でのイノシシ捕獲数は5頭であったが、令和元年度には51頭に増加したことから御前崎市内にイノシシの活動域が広がってきたことや、以前までイノシシ被害があまりなかったことから農業者への防除策が根付いていないことが考えられる。 今後は猟友会による捕獲活動に加え、農業者に対して防除対策の啓発に努める必要があると考えられる。	現状では被害面積も少なく、林縁の一部の地域で被害が発生している状況と推察される。被害が多発している地域では、捕獲の他、住民に対し意識啓発を行うことで獣が近寄りにくい集落づくりを進めてほしい。 （静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター　上席研究員　水井陽介）	イノシシは、計画策定時には報告がなく、計画2年目に初めて被害報告された獣種のため、実質的な対策は、計画最終年度途中から取り組まれたばかりである。 隣接市町と比べて捕獲絶対数は少ないが、増加傾向のため、生息実態の把握を進めて、適切な目標設定に応じた実効ある被害防止計画推進が望まれる。 なお、地域の被害防除・捕獲の体制強化は緒に就いたところで、効果的推進が望まれる。
静岡県	静岡県	令和元年度	－	広域捕獲活動（有害捕獲） ○被害発生状況に関する調査の実施	○県内の市町において、集落の代表者等に対し農業被害に関するアンケート調査（集落アンケート調査）を行い、獣種や被害の程度等の調査結果を図示化した。調査結果については、市町職員等を対象に県内3ヶ所で報告会を実施し、21市町とその他関係機関から45人が出席した。	－	－	－	○県下の被害の状況を視覚的に把握することができた。また、調査結果を報告し、市町や農協と情報共有することができた。なお、データを市町や農協が活用できるよう共有し、被害が深刻な地域における対策の強化を推進していく。今後の被害状況の推移を把握するため、次年度も調査を行う。	－	－	－	－	－	－	○県内の野生鳥獣による農作物の被害金額は近年減少傾向にあるが、集落アンケート調査の結果から、被害が深刻化している地域もあり、各種対策の継続・強化が必要な状況である。集落アンケート調査の実施により、被害の拡大や、加害獣種の増加などの変化を早期に認識し、被害対策に活用できるよう、市町や農協に合わせた情報を提供していく必要がある。	鳥獣被害の実態を把握することは被害対策の基本であり、被害の因示化したことは非常に有効である。結果を市町や農業団体と共有するとともに、被害額等関係するデータとの関連性を検討し、今後の被害対策の企画立案に活用してもらいたい。 新技術の実証普及は、広域的に取り組む必要があり、引き続き県が主体となり、積極的な情報共有や連携を進めてほしい。 人材育成のための研修受講者が、それぞれの地域で積極的に農業者や住民の指導、また被害防止の活動に向けて取り組んでいけるよう、例えば組織化などフォローアップをお願いしたい。 （国立大学法人静岡大学　農学部長　森田 明雄）	
				○捕獲器材の整備による捕獲の推進	○CSF（豚熱）の発生拡大が問題になっている野生イノシシの捕獲圧を強化するため、豚熱が懸念される地域を中心にわな等の捕獲器材を整備した。				○イノシシ等を捕獲するため、くくりわな1,080基、箱わな30基を県内各地に整備した。							○緊急捕獲活動支援事業におけるイノシシの捕獲頭数は前年度より増加しており、捕獲圧が高まっていることから、捕獲器材の需要に応えることができた。		
				○野生イノシシの生息状況調査の実施	○野生イノシシを捕獲するわなの設置場所を探るため、イノシシの痕跡等の調査を実施した。 ○野生イノシシが出没する大井川河川敷において、ドローンを用いた生息状況調査を実施した。				○野生イノシシの痕跡のある場所を猟友会員等が把握することができ、わなを設置する際の参考となった。 ○大井川河川敷において、赤外線カメラを搭載したドローンの観測されたイノシシはほとんどが単独の個体であり、イノシシの侵入段階は現時点では進んでいないことが確認できた。							○ドローンを活用し、人が入りにくい区域で野生鳥獣の生息状況の調査が実施できたが、植生や地形、気象条件等により調査可能な範囲が限定的であった。		
				新技術実証・普及活動 ○ICT技術による捕獲わなの現地適応性等実証	○個体の頭数や大きさをセンサーで感知し捕獲を行うICT囲いわなを県内2ヶ所、わなに設置したセンサーで作動（捕獲）状況を通知する通信システム（IoT）を県内3地域に設置し、地元関係者の協力を得ながら運用した。				○有効的なわなの設置や管理方法等を試行しながら、ICT囲いわなでイノシシ19頭、シカ13頭を捕獲した。IoTと連動したわなでイノシシ33頭を捕獲し、システムの有効性について確認した。							○新技術の実証普を通じ、市町が行う取組との連携を深めることができた。 今後も引き続き実施し、普及に向けた課題やノウハウを蓄積する。		

				人材育成活動 ○被害防止対策の技術指導者等の育成研修会の開催等による被害防止に関する知識の普及	○地域で鳥獣被害対策を指導できる人材を育成するため市町やJAの職員の初任者等を対象とした鳥獣被害防止総合対策アドバイザー研修を開催した。（静岡市清水区、56人参加） ○農業者、市町やJAの職員等、各地域の現場で活躍が期待される人材を育成するための研修会を、県内8地域（賀茂、東部、富士、中部、志太榛原、中遠、西部、天竜）で開催し、被害防止対策の知識や技術の習得、防護柵の設置実習、捕獲技術の習得等を行った。（延べ257人参加）				○基礎的な内容から発展的な内容まで、座学や実習を織り交ぜた研修を各地で開催した。 ○研修受講者がそれぞれの地域で被害対策の指導的役割を果たすことが期待される。							○多くの地域で捕獲従事者の減少・高齢化などが課題となっているなか、被害対策のための人材育成を引き続き行う。 ○今後も技術的助言や情報共有などを通じて、人づくりや基盤づくり、広域的な連携などを中心に、取組を進めていく。		

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5　都道府県による総合的評価

目標を達成した地域においても獣種によっては被害が増える場合があった。目標の達成状況に関わらず、捕獲や被害防除、生息環境管理等取組を引き続き強化するとともに、鳥獣被害対策実施隊による被害対策の体制整備を進めていく。